

アサリのからだのしくみを探ろう！(軟体動物二枚貝)

今日は潮干狩りで採取したりスーパーで買ってきたアサリを使って、無せきつゝ動物の二枚貝の体のしくみを勉強しましょう。小さな貝にも、心臓や腸やエラなどがあって、海の環境に適応した体をしていることがわかります。

手順

- ① アサリの中で大きめのものを選びます。アサリをきれいな海水(約3%の塩水でもよい)に入れます。
- ② しばらくすると、入水管、出水管が出てきます。また、体の中のはい物をはき出します。
- ③ 貝の殻のすきまからナイフを入れて開けば、貝の内部を簡単に観察できます。



- アサリは、二枚貝の一種です。アサリのような干潟にすんでいる貝は、砂にうもれないように、大きな「あし」をもったものが多くいます。家族で潮干狩りに行ったときなどに、アサリを砂の上に放置すると、動く様子を観察することができます。

観察①(入水管と出水管のはたらきをみてみよう)

アサリを海水(約3%の塩水)に入れ、そこに苔のすみを流しこみます。初めは、海水が黒くなります。しばらくすると貝がすみを吸って水がきれいになっていきます。出水管から水が出てくることも観察できます。この実験で貝が海水をきれいにしてきていることもわかります。



観察②(アサリのからだをよくみてみよう)

アサリの体には、心臓や腸・こう門もあります。食べ物は、口から入り胃や腸を通して、ふんになり、こう門から、出水管を通して水中に出されます。入水管や出水管には細かい毛が生えていて、この毛を動かすことで、管のまわりに水流を作っています。入水管からえさの混じった海水を取りこみ、いらなくなったふんなどを出水管から外に出すのです。





















